

学園だより

和歌山工業高等専門学校

第 109 号

令和 4 年 9 月



入学式



学寮新5号館



校内体育大会



校内体育大会 (バスケットボール)

目次

教員は研究力の向上を	校	長	北風幸一	3
ICTによる教育の多様性について	教務主事	榎原恵藏		4
令和の運動部活動	学生主事	三岩敬孝		5
新5号館の完成について	寮務主事	岸本昇		6
タイ高専（KOSEN-KMITL）の紹介	電気情報工学科	竹下慎二		7
学生会長のあいさつ				
コロナに感染して	知能機械工学科4年	中浴大輔		9
和高専に入学して	知能機械工学科1年	西尾心		10
高専生活	生物応用化学科1年	畔川大空		11
高専に入学して	環境都市工学科1年	久保威吹		11
専攻科に入学して	メカトロニクス工学専攻1年	吉田光琉		12
専攻科に進学した今感じること	エコシステム工学専攻1年	宇根昇汰		13
留学生—自己紹介				
	知能機械工学科3年	ジュンティン		14
	電気情報工学科3年	ナット		14
	環境都市工学科3年	インハ		15
	知能機械工学科4年	アイシャ		15
	電気情報工学科4年	ジェイ		16
	環境都市工学科4年	チャイホック		17
	知能機械工学科5年	ラビ		17
	電気情報工学科5年	プレウバト		18
	生物応用化学科5年	エボ		18
	環境都市工学科5年	チンホック		19
柑紀寮より				20
お知らせ				
令和4年度 学科主任				22
令和4年度 クラス担任				22
令和4年度 学生相談員（ハラスメント相談員）				23
令和4年度行事計画				24

教員は研究力の向上を



校長
北風 幸一

高等専門学校が持つ強みの最も重要な源泉は優れた教授陣なのだろうと考えています。そして、その教員の教育力と研究力を維持・向上させることが学校としての魅力の向上にも繋がると考えています。

学校教育法における高等専門学校の位置付けを大学と比較しながら確認してみます。大学は「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的」とし、「その目的を実現するための教育研究」を行うとされています(第八十三条)。一方で、高等専門学校は「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的」とし、「その目的を実現するための教育」を行うとされています(第百十五条)。このように、学校教育法上では、高等専門学校の目的には大学とは違い「研究」が含まれていません。ただ、高等専門学校設置基準では、「その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努めるものとする」(第二条第二項)とされ、高等専門学校においても教育目的の実現に必要な範囲内で研究を行うべきことが規定されています。すなわち、高等専門学校における研究は、教育に従属する副次的な位置付けであることが窺えます。

それでもなお、教員の教育力だけでなく研究力の維持・向上も重要であると考えるのは、それが、①模倣困難で、②代替が難しく、③希少な、④価値あるもの・人材であるからです。リソース・ベスト・ビューという経営理論上の観点からは、こうした条件を備えた教員という「資源」があつてこそ、他の学校との差別化が可能となり、持続的な競争優位を実現することができます。中学卒業直後の早い段階から大学教員と同等の資格と能力を備えた教員から指導を受けられるということは、

それ自体が間違いなく本校の強みと言えるでしょう。ただ、大学教員と同等の能力であると言い得るためには、博士号を取得した研究者でもあるというだけでなく、大学教員と遜色ない研究実績を有することも必要なはずで、十分な研究実績があつてこそ、模倣も代替も困難な希少な価値と言えるからです。

その研究を進める上で参考になる理論を経営学の文献の中から見つけました。「知の探究・知の深化の理論」というもので、経営学においてイノベーションを説明する際に重要視されている理論です。そこでは、人や組織が認知できる範囲には限界があり、有用な情報が多数あるにもかかわらず、そのほんの一部しか認識することができないことが前提とされています。その上で、画期的なイノベーションを起こすためには、認知の範囲内にある知の基盤を活用して「知の深化」を進めるだけでなく、「知の探索」によって認知の範囲そのものを広げなければならないとされます。

この理論における「イノベーション」を「革新的な知の成果」と読み替えて研究の進め方に当てはめてみると、既知の専門分野の周辺においてだけでなく、より遠い学問分野での「知の探索」にも力を入れてこそ革新的な知の成果を生み出せるのだということになります。研究を始めたばかりの学生の場合は短期間で確実に成果を上げる必要があるでしょうから、指導教員から大まかなテーマや手法を提示してもらい、既存の認知の周辺での「知の深化」を中心に研究を進めざるをえないかもしれません。これは研究歴の浅い教員の場合も同様でしょう。しかし、それ以外の教員の場合には、自分の専門分野とは離れた分野での「知の探索」にも果敢に試みるのが、画期的な研究成果を生むためには重要なのだと考えられます。

こうした理論を単純に当てはめることができない研究領域もあるとは思いますが、こうした理論も参考に、教育の質向上のためにも、学校の魅力向上のためにも、本校の教員には研究力の向上にチャレンジし続けていただきたいと考えています。そのことが、前途有望な学生の教育・指導に従事できる場としてだけでなく、自らの研究を継続・発展させることができる環境を求めて、本校を選んだ教員自身のためにもなると信じています。

ICTによる教育の多様性について



教務主事
檜原 恵藏

今年度の前期期末試験はコロナウイルス感染の第7波の最中にあり、学生の皆さん並びに保護者の皆様には多大なご苦勞をおかけしました。おかげさまで多くの学生には期末試験を受けてもらうことができました。しかしその一方で、期末試験を受けられなかった学生も少なからずいます。受験できなかった学生の皆さんには追試験等に対応するので、引き続きご協力をよろしく申し上げます。

さて夏休みに入ってから学生の皆さんは本校での勉強づくしの生活から離れ、自宅などでゆっくり過ごされていることでしょうか。中には読書、アルバイト、旅行など、日頃できなかったことに挑戦されている学生もいるのではないのでしょうか。いずれにしても実りある充実した夏休みを過ごしてください。

本校では「学校間単位互換」という制度を後期から取り入れるための準備をしています。この制

度は高専機構からの通達によるもので、全国高専は可及的速やかに本制度を導入するよう指示されています。本制度が導入されれば、本校学生が、他高専が開設している科目を履修し、単位を修得できれば、卒業単位への組み入れができるようになります（一部科目を除く）。本制度を導入するにあたり本校の規則と照らし合わせると整備すべき課題が幾つかありますが、本校ではインターネットを利用した教育の多様性に適切に対応してゆく所存です。

本制度を利用して受講を希望する場合、基本的には他高専からの遠隔授業をビデオ配信（オンデマンド方式）で受けることになります。本校の時間割以外の時間帯でビデオ配信による授業を自宅や寮の個室で受講します。コロナ禍が駆動力となり遠隔授業はここ数年で急速に普及してきましたが、本制度を利用する本校の学生においては、他高専の授業を受ける意義をしっかりと理解した上で受講して欲しいと思います。学生が自宅で受講する場合、時にはその様子を保護者の皆様にみていただきたい。急速に発達したインターネット環境を利用した教育コンテンツを効果的に利用するには、教員と学生の双方の高い意識が必要だろうと考えています。



令和の運動部活動



学生主事
三岩 敬孝

「練習中は水を飲むな!」、「根性が足りない!」。昭和の時代、このような言葉を毎日のように聞きながらクラブ活動をしていたように思う。先輩に隠れて水道の水をコソコソ飲むスリル。天気予報を見ては「明日、雨降らないかなあ」なんて思ったりもしていた。水を飲んではいけない理由は何でしょうか。「根性」ってどんな能力なんですか。

昭和の時代はスポコンアニメも多くあり、テレビの画面からは今では体罰と言われるような映像も流れ、とにかく毎日厳しい練習をすることが上達する手段であるかのように体を痛めつけていた。うさぎ跳びなんてトレーニングを知らない学生も多いであろう。あれから時代は平成、そして令和となり今では「できるだけこまめに水分を摂るように」、「十分な休養を」なんて言われるようになった。

現在、スポーツ庁の示すガイドラインによると、学校における運動部活動は「体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養に資するなど、生徒の多様な学びの場として、教育的意義が大きい。」と、クラブ活動の重要性を示しながら、「生徒の自主的、自発的な参加により行われ、学校教育の一環として教育課程との関連を図り、合理的でかつ効率的・効果的に取り組むこと」としている。

また、学校側としては適切な運営のための体制を整備するために、毎月の活動計画（活動日、休養日及び参加予定大会日程等）及び活動実績を作成し提出することも求められ、各クラブにおいて作成を求められていることはご存じの通りである。

さて、「合理的でかつ効率的・効果的な活動」への取り組みであるが、こちらの方は選手個人に対する心身の安全対策である。クラブ活動を実施するにあたり、学生の心身の健康管理（スポーツ障害・外傷の予防やバランスの取れた学校生活への配慮等）及び体罰・ハラスメントの根絶は絶対である。ガイドラインでは指導を担当する顧問に対し、「スポーツ医・科学の見地からは、トレーニング効果を得るために休養を適切に取る必要があること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらないこと等を正しく理解するとともに、・・・競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導を行う。」とある。

本校では、クラブ活動時間として1日4時間程度（準備及び片づけを含む）、週2日（平日1日、土日のうちいずれか1日）の休養日を設けることとしている。非常に厳しい、もっと練習したいと思っている学生もいるかもしれないが、平成29年に公益財団法人日本体育協会から報告されている文献研究では、世界的にも16時間/週以上のトレーニングを行うと、医療ケアを必要とするスポーツ外傷・障害やバーンアウト（燃え尽き症候群）が高まり、体力・運動能力の向上につながらないことが指摘されている。

学生の皆さん、クラブ活動は教育的意義が大きいことは世間も学校も認識している。しかし、本校は社会の役に立つ技術者を育成する学校であって、オリンピック選手を育成する学校ではなく、生涯にわたって障害が残るリスクをおかしてまでするものではない。むしろ短時間でより効果的に技術が向上する科学的なトレーニング方法を導入する方がより高専的ではないでしょうか。

やみくもに時間を費やし、体を痛めつけ、根性論で昭和の練習方法を令和になった今でも続けるのではなく、練習中に堂々と水が飲めるようになったように、科学的に理に適った新しい練習方法を考案し、より効率的・効果的に技術の向上を図ってみませんか。

新5号館の完成について



寮務主事
岸本 昇

我が和歌山高専は和歌山県御坊市にあり、大変風光明媚な立地となっています。一方で交通の便が非常に悪く、多くの学生にとって学寮（柑紀寮）は必要不可欠な施設となっています。本科、専攻科を合わせて、在校生の約6割（現在は4、5号館の改築のため減員し53%）が寮生として生活していることから、その重要性が分かります。

高専は、多くの学生が学寮で共同生活することから、社会人基礎力の高い技術者をより多く輩出し、地域や社会により一層の貢献をすることが期待されています。

本校で最も古い建物は1966年に完成し、何度か改修工事を重ねています。しかしながら55年以上経過し老朽化が著しく、必ずしも快適に生活できる施設とは言えない状況になっており、教育寮としての機能不全が目立っていることから、学寮の改築工事が進められています。

建物を改築することで、寮生の福利厚生が充実するばかりでなく、本校を希望する中学生への積極的なアピールも行えるようになります。さらに将来予測されている大地震への耐震性も向上し安心感が増します。新しいタイプの混住（シェアハウス）型学生寮として改築を進めていることから、各フロアに設置される交流スペースでは、日常から仲間や学年を超えた寮生の協力関係が一層築きやすくなることが期待されます。このタイプの新7号館は既に昨年度後期から運用を開始しています。

5号館は7号館から1年遅く工事が進められていましたが、先日無事に新しい建物が完成しました。1階に寮生食堂、男子高学年・低学年用大浴室を配置し、2階、3階には各22名が居住可能な混住（シェアハウス）型学生寮が設置されています。これまで使用していた旧寮生食堂は食品の前処理

室がなく衛生上問題がありましたが、新寮生食堂では前処理室はもちろん、食堂として備えるべき機能を全て有しています。照明はLEDを採用し、明るく清潔感のある施設となりました。大浴場については、旧施設は故障が頻発し、また内トイレもない状況でしたので、寮生の皆さんには大変不自由な思いをさせていました。新しい大浴場では毎日気持ちよく入浴していただけるようになります。

9月3日（土）、多数の来賓のご臨席の下、完成式を挙行了しました。式では、北風校長から新5号館完成に際しての挨拶、二階俊博衆議院議員からお祝いのメッセージ、谷口国立高専機構理事長からの謝辞、祝電の披露がありました。その後テープカットが行われ、正式に新5号館がスタートすることになりました。式典後は、学生寮についての紹介後、新5号館披露見学会が実施されました。参加者の皆様からは「広々としてとてもきれい」、「海もよく見えて勉強が捗りそう」などの感想が寄せられ、大変好評な施設となっています。

現在、4号館についても改築工事が進められています。上手く工事が進めば、来年度竣工する予定です。ご期待ください。



独立行政法人国立高等専門学校機構 和歌山工業高等専門学校
祝 新学生寮5号館完成式

タイ高専(KOSEN-KMITL)の紹介



電気情報工学科
竹下 慎二

みなさん、こんにちは。新入生の皆さんは初めまして。電気情報工学科の竹下慎二です。今年の4月からタイにあります KOSEN-KMITL に赴任しました。現在タイには首都バンコクに KOSEN-KMITL と KOSEN-KMUTT の2つの高専が開校されていますが、私が勤務している KOSEN-KMITL はバンコク中心部から車で40分ほどのスワンナプーム国際空港の近くに 있습니다。常に航空機が行き交い、世界を感じられるこの場所でタイ人学生、タイ人教員、全国の高専から選抜された教員と共に日本の高専に追いつき、追い越すの精神で日々過ごしています。

今回はタイ高専(KOSEN-KMITL)について紹介させていただきます。KOSEN-KMITL は2019年5月に日本、タイ両政府の協力の下、設立されました(KOSEN-KMUTT は2020年6月に開校)。今年の5月2日には岸田内閣総理大臣が KOSEN-KMITL に訪問されるなど、両国政府にとって非常に重要なプロジェクトでもあります。ちなみにこの訪問の際に同僚の先生方と、岸田総理などVIPの方々の会談場所でちょっとした写真を撮りました。このときの岸田総理と KOSEN-KMITL の学生とのやり取りは、当日夜7時のNHKニュースでも取り上げられました。NHKニュースではありませんが、今でもYouTubeなどで検索すると KOSEN-KMITL がちらっと映っています。

KOSEN-KMITL の場合、現在メカトロニクス工学科、コンピュータ工学科が開設されており、来年度に電気電子工学科が新設されます。1クラス24名で各学科2クラス設置され、最大144名が毎年入学することになります。新学期は5月から始まり前期は9月下旬まで、後期は11月に始まり3月に終了します。3年次に16%程度(各学科8名)の学生が日本の高専に編入し、4年次の

夏休み(10月)に、約1か月程度日本の高専に滞在します。今年度は明石高専に滞在して、機械実習、文化交流行事、企業見学を実施する予定です。タイ高専は「Thailand 4.0」という国家プロジェクト(20年後に先進国入りを目指す壮大な国家戦略、詳しくは検索して調べてみてください)の一環として開校されたので全学生が学費免除の上、奨学金が支給されています(年額30万バーツ。8月8日レートで1バーツ=3.78円、113万4千円)。その分、将来、国の発展に貢献することが求められますので、成績不振の場合(細かい条件がありますが、一例として全科目の平均が70点未満)だと、次年度の奨学金の支給が停止され、学費の支払いが発生します。この辺はなかなかシビアです。

さて、みなさんは「高専生」というとどんなイメージをお持ちですか?入寮時に見たタイ高専の学生は新入生から体格がかなり良く(全員ではないが大きい)、活発で(単純に饒舌なのではなく、多言語を操れる学生もいる。3か国語は確認済み)日本の高専とは違うのかなと思っていましたが、体育大会(現地では「Sports Day」と言います)で在校生の行動を観察していると、話している言語は違えど、やっていることは日本の高専と何ら変わらない、つまり開校4年目にもかかわらず皆さんが知っている「高専生」がたくさんいるのです。教員目線で見ると、これは何故なのだろうと不思議で仕方ありません。

この体育大会でも見られた光景ですが、各種イベントで保護者(おそらく保護者会の代表)が平日にもかかわらず参加・協力していただきました。日本の高専でも同様のことがあります。ほぼ全てのイベントに参加していただいている方もいらっしゃいますので、タイの教育熱は思った以上に高いのかもしれません。

KOSEN-KMITL では今年度から、クラブ活動を開始しました(運動部は検討中です)。まずはロボコン、飛行機コンテストに参加するイノベーションクラブが設立されました。しかしです。「忙しい、毎日作業をしないとイケない、宿題をする時間が無い」などの理由から退部者が続出してい

ます。多忙な中、色々やりくりしている日本の高専生の姿を再認識しました。

タイ人はお祭り好きです。イベントがあると一生懸命参加します。7月23日にオープンキャンパスが開催されましたが各ブースの手伝いをしてくれる学生を募集したところ、各ブースとも定員以上の応募があり、泣く泣く選抜することになりました。私は来年新設される電気電子工学科のブースを担当して、長岡高専から来られた先生、タイ人の先生と共に中学生、引率教員、保護者、タイ政府関係者に説明しましたが、学生による説明が、一番反応が良かったのではないかと思います。6月1日からタイではコロナ規制が緩和され、上記のオープンキャンパスでも入場制限が撤廃されました。入場からイベント開始まで時間があつたせいもあるのですが、特に指示もなかったのでイベント開始前に入場者が各ブースに殺到してしまい、1日を通して最も盛り上がる状況になってしまいました。日本だったらあり得ないことが起きてしまったのですが、この辺の感覚はタイに滞在されたことがある方ならご理解いただけるかと思えます(笑)。

約15年ぶりとなるタイでの長期滞在ですが、御坊市に住んでいたこともあって最も衝撃的だったのは、日本でも大都市部だけだと思っていたフードデリバリーサービスが、タイにおいては首都バンコクだけでなく、地方都市でも一般的だったということです。日本ではウーバーイーツや出前館など有名ですが複数のデリバリーサービス会社が進出しています。元々、タイは外食文化が一般的だったということもありますが、コロナ禍において急成長を遂げていたようです。

注文するレストランと自宅との距離によって手数料が変化しますが、最小15バーツ(約57円)で配達可能なのですごく便利です。その反面、注文した料理に対しての企業側(とりわけドライバー)の取り分はどのようになるのだろうと若干心配になります。ただし問題もあります。当たり前と言えば当たり前ですが、ドライバーの人数に限界があるため、食事時には配達が遅れ気味になること(手数料を上乘せした優先配達プランで、ある程度回避可能)、スコールが降ると注文が殺到するためデリバリーが出来なくなる問題があります。

また、インターネットの発達も見逃せません。タイに留学していた時はWiFiのアクセスポイントもほとんどなく、インターネットカフェが町の

至る所にあり、若者(特に男子学生)が多くいましたが(もちろん用途は大体がオンラインゲームです)、コロナ禍の現在、インターネットカフェにはほとんど人はいません。その代わりにスマートフォンやタブレットが普及し、どこにでもWiFiのアクセスポイントがある状況です。ただし、地方では光回線が無いところもまだあります。

コロナ禍を経てKOSEN-KMITLの学習スタイルはタブレットやPCを使ってPDFやWordなどで配布された電子ファイルに直接書き込む方法が一般的です。もちろん、紙媒体に書き込む学生もいますが、ごく少数という状況です。授業資料についてはGoogle Classroomを用いており、オンライン授業やハイブリッド授業をする際にはMicrosoft Teamsを使用して授業を録画しています。この辺りは日本の高専と全く同じです。

さて、大まかではありますがタイ高専について報告させていただきました。日本も相変わらずコロナウイルスの感染拡大が収まらず大変ですが、皆様お体にはお気を付けください。次回がもしありましたら、またご報告させていただきたいと思えます。



右:総理役(竹下)と左:通訳役(同僚の先生)



オープンキャンパスにて新学科の説明をする竹下

学生会長あいさつ



コロナに感染して

知能機械工学科 4年
中 浴 大 輔

「私はコロナではない」コロナの症状がでていましたが正常性バイアスが働きました。

私がコロナの症状を発症したのはテスト前々日。症状として頭痛と体にだるさを感じていました。最初は風邪だろうと思っていました。少し体調が悪い旨を友人らに伝えたと友人の一人も体調がすぐれず咳と体のだるさを訴えていました。その後、夜に体調が悪化し体温は38.5度となっていました。同じ症状の友人も体温が37.5度以上でした。するともしかしたらコロナなのではないかという考えが浮かび始めました。次の日体温を測ると39.1度でした。友達も体調が悪化していました。私は自分の体調よりテストを優先し、高熱・頭痛があつたとしても無理に自分を押し殺し登校するつもりでした。なぜなら「私はコロナではない」という正常性バイアスが働いたためです。その時友達が一言。「俺休む覚悟できた」そう言い放った友達を見て私ははっとしました。もし私がコロナであればクラス全員に広めてしまう可能性があります。そうなった場合どうなるかを想像しました。

私はすぐさまテストのことより自分の体調を優先し、検査を受けコロナと診断されました。そして、私は自分の体調を優先できない弱い人間だと自覚しました。友達に関しては上位成績でありテストは重要だと感じていたはずでした。その葛藤の中休むという選択をした友達はとても勇敢だと感じました。

しかし、友達のことを勇敢だと感じるとういうことは、コロナに感染した事実を認めることが自分にとっては恐ろしく、高熱でも風邪だと自分に言い聞かせてしまう、自分の心の弱さが表れたということなのです。

このように、人の心まで支配してしまうところ

がコロナの恐ろしさです。

私がコロナになったことで分かったことは、コロナに感染するのは自分にも起こりうること、コロナになってもおびえないことです。その為の予防として大事なものはワクチンではなくコロナになってもおびえない環境作りだと私は感じました。学校での環境作りでいえば、コロナに感染した人と濃厚接触者の人は感染していない人と比べると否が応にもテスト内容が変更され、追試験となります。追試験は一般にテストを受ける学生より勉強時間が長くなる、先にテストを受けた学生からテスト内容を聞くことができるといった不平等が出てきます。この不平等を限りなくゼロに近づけるにはどうすれば良いのでしょうか、後に受けるテストの問題を難しくしてしまうとそれもまた不平等と思われてしまいます。さらに後に受ける問題が難しくなるのが分かると、学生は高熱でもテストを受けに来ると思います。では、どのような対応が一番学生とテストを作問する教師が納得できるのでしょうか。学級閉鎖でしょうか、他3回分のテストでの平均の成績でしょうか。これを読んでいる皆さんはどのような対応が平等だと感じますか？私はコロナに感染してテストがどのように行われるのか心配でした。これは、コロナに感染したり、濃厚接触者になったりしないといわれない感情だと思います。皆さんにはコロナになった人の目線で知っていただきたいです。第三者目線で手洗いうがい等の予防だけでよいと思うのではなく、発熱、倦怠感を感じたとき、自分自身は冷静にコロナかもしれないという状態になれるかが重要だと思います。皆さんは冷静に判断できる自信はありますか？



新入生 — 本科



和高専に入学して

知能機械工学科 1年
西尾 心

中学時代の私は、幼稚園からの片思いを叶え、吹奏楽を愛していた。加えて、好きなものは小説と音楽、得意な教科は国語と英語、私はいわゆる「文系」と呼ばれるものに属していた。

そんな私に転機が訪れる。それは幼馴染の一言から引き起こされた。

「一緒に高専行かへん？」

先輩や知り合いに高専生がいたので高専の存在は知っていた。どのような学校であるのかも。そして、幼馴染が高専に行こうとしていることも。

字数制限が危ういため詳しくは割愛するが、私

は幼馴染の提案に乗ってみることにした。根っからの文系ということに対する不安も少なからずあったが、それよりも「楽しそう」が勝ってしまったのだ。

…入学前のことばかりではつまらない。そろそろ入学式のことについて書こう。

学校側には申し訳ないのだが、印象に残ってることは「校歌の音源が吹奏楽アレンジだった」ということただ一つだけである。歌詞などはそっこのけで、どのメロディーをどの楽器が吹いているかを当てるゲームをこっそりしていた記憶がある。愛故なので許してほしい。

高専はとにかく「楽しい」でいっぱいだ。普通の高校では経験できないことが経験できる。私にとって、知らないことを知るのとはとても楽しい。ありがちな台詞だが、「経験、知識は財産」なのだつくづく実感する。これからも貪欲に、楽しむために、学び続けたいと思う。





高専生活

生物応用化学科 1年
畔川 大空

私はなぜ、こんな学力の高い学校に入学してしまったのだろうか。このような考えがたまに、頭をよぎります。

勉強はとてつもなくしんどいです。テスト期間中は特に泣きそうになります。さらに、テスト期間中でもレポートは書かなくてはいけない。なのに、クラス平均が異常に高い。そこで、追い打ちをかけられます。寮生活だって、インターネットは、12時には切れてしまうし、決まった時間に行動しなければいけないのも、最初は慣れなくてしんどかった。しかも、近くに娯楽施設がない。

本当に大変な学校生活です。

さて、愚痴を吐いてスッキリしたので、学校生活での良かったことを書くことにします。

勉強の面で良かったことはやはり、ほかの高校では絶対に受けられない専門的な授業を受けられることです。そして部活の面でも良かった事はたくさんあります。私は弓道部に所属していますが、毎日とても楽しいです。まだ一年生なので何もできないけれど、先輩方とはとても話しやすい方々ばかりで、いろんな事を教えていただいています。また、寮生活ではたくさんの人たちと仲良くなることができたので、コミュ障の私は本当に助けられています。

そんな感じで、嫌なことだってたくさんありますが、楽しい事はもっとあります。これからもっと、色んな人たちと関わり、これからの学校生活もかなり充実させていきたいです。



高専に入学して

環境都市工学科 1年
久保 威吹

新型コロナウイルス発生から3年、僕たちは高専に入学した。中学1年の終わりに差し掛かるところで発生したこのウイルスは、全世界を混乱の渦に巻き込んでいった。このウイルスに負けないようにこれからも頑張っていくつもりだ。

ここからは高専に入学する前とした後のイメージの違いを書いていく。

まず、この学校の名前を聞いた時、「国立和歌山工業高等専門学校」という堅苦しい名前から、最初はすごく厳しい学校を想像していた。けれど高専に受かった先輩に聞いてみると、その印象はがらりと変わった。校則も緩いし、制服もないと言うのだ。「こんなに素晴らしい学校はない。」僕はそう感じ、この学校を受験した。

とはいえ、いざ入学してみるとやはり思ってい

たのとは違うことが多かった。寮の部屋はもっと広いと思っていたし、コンビニも予想以上に遠かった。しかし今はもう、寮の部屋が狭いと思うこともなく、コンビニも近いと感じるようになった。けっして和歌山高専を馬鹿にしているわけではなく、要するに和歌山高専について最初に高望みしていただけなのである。

学校や寮のような施設だけでなく、友達もそうだ。最初は中学校の友達や古くからの親友と比べてしまい、あまり楽しくないこともあった。けれども、出身も違えばノリも違う、笑いのツボも違うのだから当たり前だ。これから5年も一緒に過ごしていくのだから今よりもっと楽しくなっていくのだろう。

ここまでいろいろなことを言ってきたが、僕は普通の高校より高専は楽しいと思っている。先輩はとてもやさしいし、先生も面白い。クラブも適度に休みがあるなど素晴らしいのである。

僕は和歌山高専に入学してとてもよかったと思っている。これから高専に入学しようとしている後輩にも、和歌山高専を薦めようと思う。これからも高専生活を全力で楽しんでいくつもりだ。

新入生 — 専攻科

専攻科に入学して

メカトロニクス工学専攻1年
吉田 光 琉

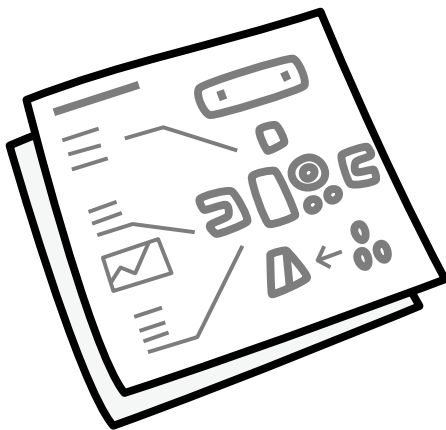
連日、コロナ感染者が増加する中、いつオンライン形式の授業となるかもしれない不安もある中、専攻科の生活が始まりました。

僕が専攻科に入学しようと思った理由は、太陽電池に関する研究に携わりたかったからです。本科5年の卒業研究では、プログラミングなど情報系の分野の研究をしていたため、研究分野を変えたことで分からないことも多く、最初は不安でした。しかし、研究室の先生、先輩方に丁寧に教えてもらうことで知識が身につき、今は楽しく研究しています。このように、専攻科に入学したタイミングで研究室を変えることができるので、卒業研究で取り組む研究の他にも学内に興味のある研究室がある人は専攻科に入学してみるといいかもしれません。もちろん1つの研究をもっと突き詰めた人にも良いと思います。また、専攻科の2年間を将来のビジョンをより深く考える時間に充てることもできます。

メカトロニクス工学専攻では、知能機械工学科、電気情報工学科出身のクラスメイトで構成されており、私が学んだことの無い機械系の分野の授業も受けなければいけません。今まで学んだことの無い分野であったため、難しく分からない部分も多かったですが、機械科出身のクラスメイトに教えてもらったりしていました。いろんな分野の勉強ができるため、視野が広がり、将来の選択肢も広がると感じています。

専攻科1年次には、メカトロニクス工学専攻とエコシステム工学専攻の学生で4人程度の班を作り、テーマに沿った研究を行う「創造デザイン」があります。色々な学科出身の学生で協力するため、色々な考え方やどんな研究をしているかなどのお話を通して、とても刺激を受けることができました。逆に、自分の専門分野について教える機会もあったので、お互いに助け合いながら作業をすることで他学科の人とも仲良くなれました。

他にも、メカトロニクス、エコシステムの学生と一緒に授業を受ける共通一般科目があります。その一つにビジネスコミュニケーションという科目があるのですが、学生が趣味・研究・考えについて発表をする機会があり、あまり接点の無かった人の事も知れたりしてよかったですと感じています。また、他学科の学生にも優秀な人が多く、自分ももっと頑張らないといけないなと刺激を受けることができました。





専攻科に進学した今 感じること

エコシステム工学専攻 1年
宇根 昇汰

僕が専攻科に進学を決めた理由は「迷い」でした。僕は生まれてこの方優柔不断でした。レストランなんかに行った際は、注文が決まらずメニューと睨めっこするなんてことは当たり前でした。そんな食べたいものも決められないような僕が自分の進路を決める日には、それはそれはもう大いに悩まされました。

就職はまだしたくはないが、かといって特別学びたいことがあるわけでもない。目的なく進学するくらいなら就職した方がいいのか、やりたいことが決まるまで勉強を続けるのか、なんて悩んでいるうちに友達は続々と進路を決めて行きました。焦りながら時間だけが過ぎていく中、専攻科進学が頭に浮かびました。

行動コストという言葉があります。目的達成までに必要な行動の数、言うなればやらなくてはいけないことの数です。進路決定には莫大な行動コストがかかります。例えば就職なら様々な会社を吟味して希望企業を決定し、企業研究や面接対策を重ねて就職試験に備えたり、場合によってはインターンに参加したり、少し考えただけでもやるべきことが山のように出てきます。進学する場合も同じでしょう。

僕は優柔不断だけでなく、意志が弱いです。今までの人生でも行動コストの低い方低い方へと流れるように生きてきました。どうにかして楽に進路決定がしたい、そんな下心が僕の専攻科進学には少なからず含まれていました。長年過ごしてきた高専のことならすでに知っているし、環境の変化もなくて楽に違いない、なんて思ったものです。

専攻科の入学式では妙に不安を感じたことを覚えています。馬鹿な話ですが、こんなに適当に進路を決めてしまってよかったのだろうか、なんて今更ながら考えてしまっていました。しかし、そんな不安は専攻科での生活が始まってすぐに吹き飛びました。

専攻科での生活は、本科とは明確に違いました。一つは授業の内容です。専攻科では本科の4

学科出身の学生が混合で行う授業が増えました。通常の授業では今まで僕が学んでこなかったコンクリートに関する授業やセンサーに関する授業など他学科の専門分野の授業を受けることもあります。自分とは全く異なる分野の専門科目を学ぶことはあたらしく知ることばかりでとても刺激的です。また、逆に自分の専門分野や研究内容を異分野の学生や先生に伝える機会も多くあります。専門知識を持たない人に自分の専門知識をどうすればうまく伝えることができるのか、専門用語を省いたり、噛み砕いて話すよう工夫するようになりました。

もう一つは研究に対する姿勢です。僕は元々研究があまり好きではありませんでした。実験は手を動かすことが多く、本音を言ってしまうと面倒に思っていたことも多々ありました。しかし、専攻科では研究に割り当てられる時間も多く、本科の頃より研究室にいる時間も増えていきました。自分の研究を進めるために調べ物をしたり、先生や先輩方に質問させていただくなかで自分の研究に対して真剣に向き合っていくようになりました。実験や解析の手法は難しく、勉強すればするほどわからないことが増えて行きました。それでも勉強を続けていくと、少しずつわからなかったことがわかっていくようになり、その少しずつ成長していくような感覚が楽しくなりました。特に僕は解析手法を学ぶことが好きで、奥が深くとても多様な解析手法を少しでも活用できるようになるため勉強を重ねています。このおもしろさは専攻科に入らなければ気づくことができませんでした。

はっきり言ってしまうと迷いながら入学した専攻科でしたが、現在は専攻科でよかったと思っています。異分野の学生や先生方と関わる機会はなかなか味わうことができませんし、そのような人達に自分の知識をうまく伝える経験はエンジニアや研究者にとってとても大切だと思います。また個人的なことですが、研究の楽しさというものに気づくことができたこと、これが僕にとって専攻科に入学して一番よかったと思えることです。

これを読んでいる進路に悩む後輩がいるならば、僕のこの経験を参考に、とは言いません。浅はかな考えのもと進路を決めた僕のような人間でも新しい発見や成長を感じることができているということを心の片隅においていただけると幸いです。

留学生 — 自己紹介



知能機械工学科3年

WEE JUN TING

ジュンティン

皆さんこんにちは！3年知能機械工学科のジュンティンです。出身はマレーシアのペナンで、今年の4月に和歌山高専に入学しました。和歌山高専に入る前に、日本語を一年半ほど勉強しました。日本語を学ぶことは最初、難しかったですが、学んだことを使って日本の人とコミュニケーションをとることができたときはとてもうれしいです。

「あれ、マレーシアはどこだっけ、シンガポールは知っているけど、マレーシアはどこかな…」と多くの人がそう考えているのではないのでしょうか。マレーシアは東南アジアの中心に位置し、マレー半島南部とボルネオ島北部から成り立ってい

て、熱帯雨林気候に属し、一年中真夏のような気候が特徴です。また、マレーシアはアジアでも珍しい多民族多宗教国家です。マレー系、中華系、インド系と様々な先住民族で構成されていて、イスラム教を国教としながらも、別の信仰が認められています。多民族なのでマレーシア人が2つ以上の言語を使うことも普通です。

日本に来てから、清潔さと生活についての先端技術に驚かされました。日本の道路はいつもゴミがないし、電気はどこでも自動的についてしまいます。クラスメートはとても優しく、いつも助けてくれて、お世話になっています。ほんとうにありがたいです。和歌山高専に入ってからバレー部に入りました。そこで多くの友達ができ、放課後の時間を練習に使うことができ、とてもうれしいです。

これからも日本で勉強しながら、ここでの生活を楽しみ、日本についてもっと学びたいと思っていますのでよろしくお願いします。



電気情報工学科3年

**TAMPRASERT
NUTTAPAT**

ナット

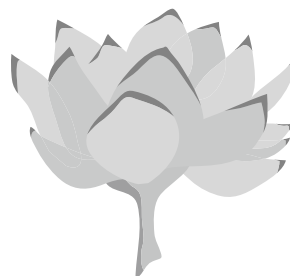
皆さんこんにちは。電気情報工学科3年のナットです。タイから来ました。日本に来る前は、1年間ぐらいタイの大学で情報工学について勉強し、日本に来てからは、東京日本語教育センターで1年間日本語を勉強して、今年4月、和高専に入学しました。趣味はゲームをすることです。

日本に来て、色々な文化の違いを感じましたが、最も大きな違いは言語だと思います。例えば、日本語には丁寧語とか敬語とか普通の話しかたとか、文法や言葉が大きく違うので、時々相手の言うことが分かりにくいと感じています。

勉強の内容についてはこれまでの大学と似てい

ますが、高専での生活や勉強のやり方は、これまでの大学とかなり違います。例えば、大学生の時、出席が必要ではない授業がたくさんありましたが、高専では全部の出席が必要です。そのため自由時間は大学生の時よりずっと少なくなりました。まさに高校みたいな感じです。より厳しいルーチンに適應することは私にとってかなり難しいですが、留学するという事は、勉強ばかりではなく、まわりに適應しながら生活し、学ぶことです。

これから、勉強も、日本語も、生活も、もっと頑張ろうと思います。よろしくお願いします。





環境都市工学科3年

**Lkhagvajav
Enkh-amgalan**
インハ

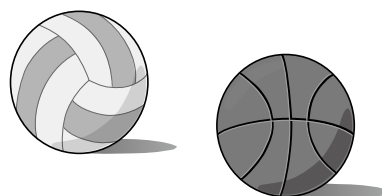
皆さんこんにちは、環境都市工学科3年のインハです。出身はモンゴルで、来日してもう一年が過ぎました。私は一年間東京で日本語の勉強した後、今年の4月に本高専に入学しました。趣味はバスケットボールとバレーボールです。モンゴルには公共交通の問題が多くあり、暮らしにくくなっています。日本に留学し、日本のきれいな都市に似せてモンゴルという国を発展させる、という大きな夢を持って日本に来ました。

日本に来たばかりの時はいろいろ大変でした。例えば、日本の天気はモンゴルの天気と比べると湿度が非常に高く、気温も高いので慣れるために時間がかかりました。和高専に入学して日本人の中に一人入って一緒に勉強することも大変怖いと

思っていました。しかし、クラスに入って優しいクラスメートと会って安心しました。

授業でわからないことがあったら、友達や先生に聞くと優しく、わかりやすく教えてくれるし、授業以外でもバスケットボール部とバレーボール部の先輩たちの優しさは大変嬉しかったです。

今から勉強するだけでなくもっと日本人の友達を作り、日本の生活、文化などについてもっと詳しく知りたいと思っています。そして日本人にもモンゴル文化・生活などについてできるだけ教えてあげられるように頑張ります。よろしく申し上げます。



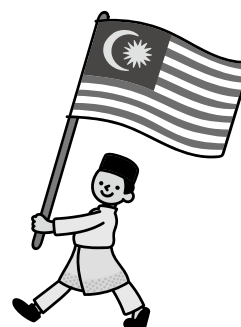
知能機械工学科4年

**Wan Aisyah
Adlin binti Wan
Mohd Hazim**
アイシャ

私は知能機械工学科4年生のアイシャといいます。

マレーシアのコタバルの出身です。和歌山高専に対しての第一印象は先生方と学生課の職員の方々の温かさを感じました。今でも先生方が丁寧に優しく教えてくださることに感謝しています。入学したばかりの時、新しい異なる環境や知らない人に適応できるかどうか不安でした。しかし、時間が経つにつれて、友達の親しみやすさや先輩たちの優しさのおかげで本校での生活が快適になっています。

Growing up, the idea of studying engineering in a different language always seems far-fetched. Undeniably, with a privilege comes a responsibility but shout-outs to those friends who are helpful, families and teachers with their endless support and patience. I can't thank these people enough but they are the ones who make my years at Wakayama KOSEN feels like a worthy Pandora box to be opened.





電気情報工学科4年

**Tumorkhuyag
Tselmuun**

ジェイ

皆さんこんにちは。電気情報工学科4年生のジェイです。アルファベットでは一文字Jです。このニックネームにした理由は本名が長くて言いにくいので日本人の皆さんが覚えやすいようにしたかったからです。出身はモンゴルで、令和3年に和歌山の3年に入学しました。趣味はバスケットボール、柔道、コンピュータ、絵を描く、食べるとかいろいろです。

皆さんのモンゴルのイメージは馬、草原、相撲、ゲルだと思います。もちろん世界にそれで知られていますが、モンゴルには都会、美しい自然もあります。これはモンゴル首都ウランバートルの写真です。



ウランバートルにモンゴルの人口の半分以上が住んでいます。モンゴルの冬はとても寒くて-40度で、夏はとても暑くて+40度です。これはモンゴルの自然の写真です。

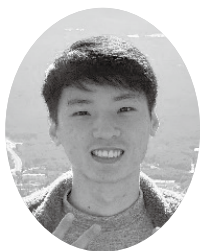
ぜひモンゴルへ行って見てください。



私は和歌山に来る前に東京の日本語学校で半年間日本語を学びました。そのおかげで日本語が少しだけわかるようになったので、ここで友達がたくさんできました。私は柔道部に入っていて、日本の部活動を楽しんでいます。柔道部のみんなは優しくて強いです。留学生の私にたくさんのことを教えてくれたり、日本語で通じないときは英語で説明してくれたりします。授業だけではなく困ったことがあれば先生たち、友達、学生課、寮事務の皆さんが全力で助けてくれて感謝しています。

これからも日本について知らないことを楽しく学びたいと思います。よろしくお願いします。





環境都市工学科4年

Chang Chhay Hok

チャイホック

皆さん、こんにちは。チャイホックといいます。カンボジアから来ました。昨年の4月、和歌山高専に入学し、今年、環境都市工学科の4年になりました。趣味はバドミントンと映画です。

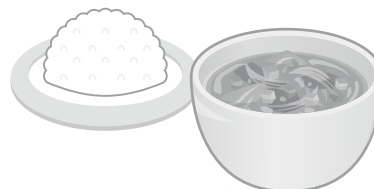
皆さん、カンボジアと聞いたら、まずアンコールワットだけの国だと思う人がたくさんいるでしょう。アンコールワット以外にも、カンボジア料理とお菓子も有名です。カンボジア料理とお菓子は日本のものと比べるとかなり違います。カンボジアでは生魚をあまり食べることはなく、味は少し辛いです。お菓子はだいたいココナツミルクからできています。

2020年9月に日本に来て、東京で日本語を勉強し始めました。6ヶ月ぐらい日本語を勉強した

後、和歌山高専で日本の学生との授業が始まりました。最初は日本語も大変だし、寮の生活にも慣れていませんでした。幸いなことに、チューターとクラスメイトが親切なので、私は日本語と日本の生活にも早くに慣れていきました。日本人の友達もどんどん増えてきました。

天候についても日本とカンボジアとは全然違います。カンボジアでは一年中暑く、地震は一度もありません。日本の天候は寒いですが、生活面では便利です。

最後に、私は勉強だけではなく、日本の文化などについても学びたいと思っていますので、よろしくお願いします。



知能機械工学科5年

**Rabiatul
Adawiyah binti
Azroul Shahrain**

ラビ

こんにちは。知能機械工学科5年のラビといいます。私はマレーシア出身です。2020年10月に和歌山高専の3年に入学しました。

新型コロナウイルス感染症対策で4月から入国できなかったため、日本に来る前は、オンライン授業に参加していました。この時、クラスの担任の先生と同じクラスのチューターとよく日本語で話し合いました。そのおかげで日本語が以前よりもよく話せるようになりました。本当に優しく私に接してくれてとても感謝しています。

和歌山高専を卒業してからも、2年間、日本に住みたいと思っています。もっと多くの友達をつくりたいです。





電気情報工学科5年

Nyamdorj Purevbat
プレウバト

こんにちは、和歌山高専の留学生プレウバトです。2020年にモンゴルからきました。今年は電気情報工学科の5年生です。趣味は映画を見ることです。日本のアニメもみています。

みなさんにモンゴルについて少し紹介しようとおもいます。モンゴルの一番の特徴は遊牧民の習慣だとおもいます。遊牧民は季節によって一番適切な所に移動します。それは五種類の動物をかつているからです。羊、山羊、馬、ラクダ、牛です。モンゴルの人々は昔からこうやっていろいろなところに移動しながら生活していました。現在でもモンゴルの地方の人々は遊牧民のように生活しています。一方、都市部は他の国とだいたい同じです。

モンゴルと日本の違いといえば天気と食べ物です。天気については、モンゴルの冬は寒くて雪が多くふりますが、和歌山では雪が降ることが少ないです。また食べ物については、モンゴルの主食は肉ですが、日本の主食は米です。

皆さん将来、機会があればモンゴルに来てみてください。



生物応用化学科5年

Batbold Erdenebold
エボ

皆さん、はじめまして！ 和歌山工業高等専門学校生物応用化学科5年、エルデネボルドと言います。東アジアの北部に位置するモンゴルの出身です。趣味といえば、読書、バスケットとチェスなどです。来日してから、将棋と花札にもすごく興味がわきました。また、いろいろなところへ旅行し、たくさんの人と知り合うことも好きで、存分に楽しんでます。日本に留学した理由は、日本の近代的な技術と日本人の精神的な考えを学ぶことにあります。今の私には学ばなければならないことが山ほどありますので、もっと頑張ろうと思っています。せっかく母国語で書けるチャンスをいただいたので、感謝の気持ちでモンゴル語を紹介します。

Чихний чимэг болсон аялгуут сайхан Монгол хэл мину. Косенд өнгөрүүлсэн хугацаанд, ах дүү нараас өөрцгүй олон сайхан хүмүүстэй учирч танилцсан. Юун түрүүнд энэхүү хүмүүсдээ, чин сэтгэлийн зүгээс баярлаж явдгаа хэлэх нь зүйтэй болов уу. Хором мөч бүрийг инээд хөөр, баяр дүүрэн өнгөрөөсөн бүх дурсамжууд маань, зүрхний минь гүнд тодоос тод хадгалагдан үлджээ.

Мөн олон зүйлсийг шинээр сурснаар, амьдралын маань харах өнцөг минь бага ч атугай өөрчлөгдсөн болов уу хэмээн найдаж байна. Үр хойчдоо өөрийн мэдлэг ур ухаан бүхнээ, үеийн үед заан сурган өвлүүлэн үлдээх болноо. Та бүхэндээ маш их баярлалаа.

読者のみなさんと親しくさせていただきたいと思っています。よろしく願いいたします。



環境都市工学科5年

NGOR CHINHOK

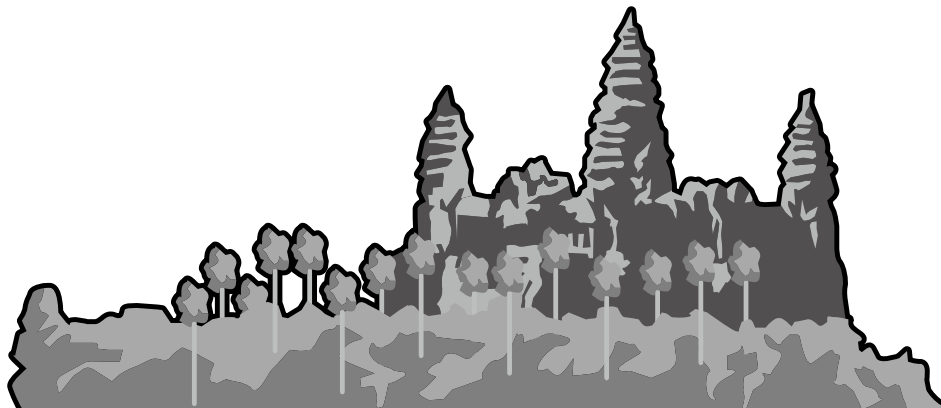
チンホック

私は、環境都市工学科5年に所属している留学生のチンホックです。カンボジア出身で、日本に来てから3年間ほど経ちました。日本に留学している間に、自分の専門を学ぶこと、実践的な技術を身に付けること、日本の会社でインターンシップに参加することなどを行いたいと思っています。自分のことはこのくらいにして、カンボジアのことを皆さんに簡単に紹介したいと思います。

カンボジア人は自分達のことをクメール人といい、クメール語を話しています。皆さんもご存じのように、カンボジアで最も有名な観光地はアンコールワットです。アンコールワットはカンボジ

アの心と魂のようなものです。そのためカンボジアの国旗には世界で唯一、建物、アンコールワットが描かれています。カンボジアは東南アジアでも長い歴史を持っている国で、アンコールワットのほかに様々な古代の寺院が残っています。機会があったら、ぜひカンボジアに遊びに来てください。

日本に来て、日本語能力の向上や日本文化の体験などの他、日本人の友達と出会えたことは日本での大切な思い出になっていると思っています。



柑紀寮より

寮務主事補

村山 暢

平素より柑紀寮の運営にご理解ご協力をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。今年度もどうぞよろしく願いいたします。4月以降に行われました主な行事についてご紹介いたします。

前期指導寮生任命式

4月8日（金）に2022年度前期指導寮生任命式を実施しました。

任命式では、北風校長より、高学年寮生から選ばれた指導寮生・副指導寮生へ任命書が手渡されました。その後、任命を受けた指導寮生委員長の電気情報工学科5年生の貝塚祐月君から、「寮生の寮生活がより良いものになるように努力します」との挨拶がありました。

任命式の後に例年行われている研修会の代わりとして、芥河晋 寮務主事補と中出明人 寮務委員から講話がありました。芥河主事補からは「責任が大きい仕事で大変だが、自主的に前向きに取り組めば必ず価値のある経験となる」、中出委員からは「プライドを持って仕事をこなし、尊敬される指導寮生委員会を作り上げて欲しい」との激励がありました。



地震と津波発生を想定した避難訓練

4月13日（水）に今年度1回目の避難訓練を実施しました。

今回の避難訓練は、午後4時45分に震度5強の地震が発生し、その後に津波警報が発令されたという想定で実施されました。寮内放送による避難命令後、全寮生は指導寮生・副指導寮生に誘導されながら避難場所に指定された本校メディアセンター棟前に非常用持出袋を持って避難しました。その後、指導寮生・副指導寮生による点呼が行われ、避難命令から12分54秒で全寮生の安否が確認されました。

本避難訓練の最後には、避難訓練実施担当の中出明人 寮務委員より講評がなされました。「現在5号館周辺は工事中であり、地震時には建機が倒れてくるなどの恐れがある。また、指導寮生が居ない状態で避難が必要になるかもしれない。様々な事柄を意識しながら行動して欲しい。」とコメントがありました。



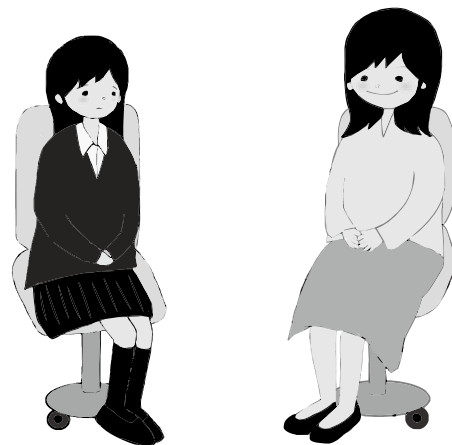
1年生を対象に「オレンジルームカウンセラー講演」を開催

5月18日（水）に本校カウンセラーの五明優介氏を講師として、1年生の寮生を対象とした「オレンジルームカウンセラー講演」を開催しました。

本校では、学生・教職員が悩み事を相談できるオレンジルームを設けています。公認心理師であ

り臨床心理士でもある五明優介氏には週3日来校していただき、悩み相談に対応していただいています。入学して月日の浅い1年生は、慣れない寮生活からストレスを溜めやすくなるという心配があります。ストレスが生じたときには独りで抱え込まずに気軽にカウンセラーに相談してほしいとの思いから、本講演は1年生の寮生全員をカウンセラーに引き合わせることを目的に毎年開催しているものです。

講演では、広い視野で物事を見ることの重要性や、「普通」の基準は所属する集団によって変わるものであること、自由も度が過ぎると不安を感じてしまうこと、といった「考え方」に関するアドバイスがありました。また、ストレスを溜めてしまった場合に陥りやすい思考のパターンやストレスに対する対処法を紹介されました。最後に、オレンジルームの開室日や予約方法に関する説明があり、何かあれば気軽に相談に来よう呼びかけがありました。



お 知 ら せ

令和4年度学科主任

学 科	学科主任
知能機械工学科	大 村 高 弘
電気情報工学科	岡 本 和 也
生物応用化学科	奥 野 祥 治
環境都市工学科	小 池 信 昭
総合教育科	秋 山 聡

令和4年度クラス担任

学年	学 科	担任教員
1 学年	知能機械工学科	マーシュ デイビッド
	電気情報工学科	和 田 茂 俊
	生物応用化学科	青 山 勲 生
	環境都市工学科	森 岡 隆
2 学年	知能機械工学科	志 村 幸 紀
	電気情報工学科	池 田 浩 之
	生物応用化学科	濱 田 俊 彦 (副: 川崎 有里紗)
	環境都市工学科	平 岡 和 幸
3 学年	知能機械工学科	徐 嘉 楽
	電気情報工学科	中 嶋 崇 喜
	生物応用化学科	スティアマルガ デフィン
	環境都市工学科	櫻 井 祥 之
4 学年	知能機械工学科	石 橋 春 香
	電気情報工学科	岩 崎 宣 生
	生物応用化学科	土 井 正 光
	環境都市工学科	横 田 恭 平
5 学年	知能機械工学科	北 澤 雅 之 (副: 原 圭介)
	電気情報工学科	岡 本 和 也 (副: 謝 孟春)
	生物応用化学科	河 地 貴 利
	環境都市工学科	伊 勢 昇

令和4年度 学生相談員（ハラスメント相談員）

心の中を見つめても、自分が見えてこなかったり、将来を見わたそうとしても、未来が見えなかったり…青春時代は、人生で最も純粋に人間や社会について悩む時代ですが、フーッと一息ついて、誰かに話してみることもあっていいんじゃないでしょうか。

なお、保護者の方々もご利用ください。

桑原伸弘	総合教育科教員（室長）
岩崎宣生	電気情報工学科教員（副室長）
石橋春香	知能機械工学科教員
奥野祥治	生物応用化学科教員
山田宰	環境都市工学科教員
池田浩之	総合教育科教員
城台理宏	学生課寮務係職員
小川敏子	学生課学生係（看護師）
五明優介	カウンセラー（臨床心理士・公認心理師）
赤松正敏	カウンセラー（ソーシャルスキルトレーナー）
坂本優美	カウンセラー（公認心理師）

予約・相談・連絡先

www.wakayama-nct.ac.jp/gakusei/soudan_w.html

令和4年度行事計画 (10月から3月)

10月 OCTOBER

- 2(日) 開寮
15(土) 学校説明会

11月 NOVEMBER

- 5(土)～6(日) 高専祭
28(月)～ 後期中間試験

12月 DECEMBER

- ～5(月) 後期中間試験
6(火)～8(木) CBT
23(金) 閉寮
.....
進路指導説明会・産業勉強会

1月 JANUARY

- 7(土) 学校長推薦入試 (登校禁止)
9(月) 開寮
21(土) 体験実習入試 (登校禁止)
24(火) 学生総会・寮生総会
.....
英語プレコン全国大会

2月 FEBRUARY

- 8(水)～15(水) 学年末試験
12(日) 学力検査入試 (登校禁止)
24(金) 終業式・閉寮
26(日) 学力検査入試追試日 (登校禁止)
27(月)～28(火) 追試・再試

3月 MARCH

- 8(水) 成績・卒業判定会
15(水) 卒業式・修了式

編集：和歌山工業高等専門学校
生物応用化学科 楠部 真崇
発行：和歌山工業高等専門学校
和歌山県御坊市名田町野島 77 番地
電話 0738-29-8243 (学生課学生係)

